

令和 5 年 6 月 15 日現在

機関番号：37604
 研究種目：基盤研究(C)（一般）
 研究期間：2018～2022
 課題番号：18K02514
 研究課題名（和文）アセスメントの結果を発達障害リスク児の保護者にフィードバックする方法に関する研究

研究課題名（英文）Method for providing parents and guardians with feedback about N-type Strengths and Difficulties Check Sheet results

研究代表者
 倉内 紀子（Kurauchi, Noriko）
 九州保健福祉大学・臨床心理学部・教授

研究者番号：60320488
 交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,100,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、研究代表者らが開発した行動アセスメント「N式得手不得手チェックシート」の結果を保護者にフィードバックするためのツールとして、iPad版「N式得手不得手チェックシート」保護者用を開発することである。
 年中・年長児の保護者・保育者にNSDCSを実施した。希望者に対して紙面によるフィードバックを実施し、図・用語のわかりやすさについて調査した。4名の保護者に保育者面接によるフィードバックを実施した。の結果に基づき、保護者用フィードバックシート（図、用語の説明を含む）、重ね書き機能（複数回の比較が可能）を盛り込んだ、iPad版「N式得手不得手チェックシート」保護者用を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
 本研究の目的は、「N式得手不得手チェックシート」の結果を保護者にフィードバックするためのフィードバックシートを考案し、保護者支援に資するツールとしてiPad版「N式得手不得手チェックシート」保護者用を開発することである。
 本研究の独創的な点は、このツールが研究代表者らが開発した「N式アセスメント・支援統合ツール」の一環として位置づけられている点にある。本研究によって、保護者支援ツールを包含したアセスメントと支援が連動したシステムの開発が実現し、学術的「問い」すなわち「社会資源が少ない中都市で実現可能な、発達障害リスク児の早期発見・早期支援システムとは？」の解決方法の一つが示されたことになる。

研究成果の概要（英文）：The research representatives developed an “N-type Strengths and Weaknesses Check Sheet” and its iPad version for nursery schoolteachers, comprising 30 questions in 6 areas that can be easily implemented by nursery schoolteachers. The purpose of this study is to develop an iPad version of the “N-type Strengths and Weaknesses Check Sheet” for parents as a tool to provide the results of the questionnaire as feedback to parents.
 The “N-type Strengths and Weaknesses Check Sheet” was given to the parents and nursery schoolteachers of in middle and senior classes. Feedback was provided to parents who requested it in the form of a written document and an interview with nursery schoolteachers. An anonymous survey was also conducted to ascertain whether the parents understood the figures and terminology used in the feedback. An iPad version of “N-type Strengths and Weaknesses Check Sheet” for parents was developed based on the results of , incorporating feedback for parents.

研究分野：言語聴覚障害学

キーワード：アセスメント 保護者支援 発達障害リスク児 発達支援システム

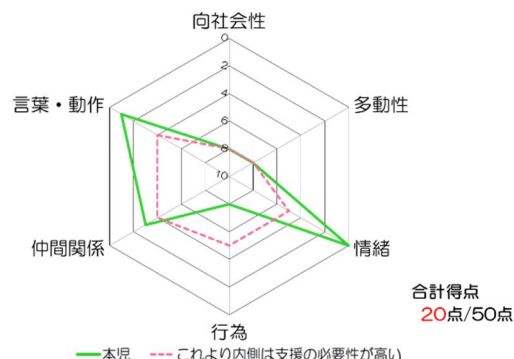
1. 研究開始当初の背景

研究代表者らは、発達に課題のある児の早期発見・早期支援システムの構築に資することを旨として、保育者が簡便に利用できる6領域30項目からなる「N式得手不得手チェックシート」(松山ら 2015)及び、iPad版「N式得手不得手チェックシート」保育者用(倉内ら 2016)を開発した。

多職種連携協働による保育巡回相談を通して、iPad版「N式得手不得手チェックシート」保育者用の活用が促進される中で、レーダーチャート(右図)がわかりやすいので保育者用フィードバックシート(レーダーチャート、用語の説明)を用いて保護者への説明を行いたいという希望が多く聞かれるようになった。実際に説明してみると用語(領域名など)や用語の解説の一部がわかりにくいという意見も多数得られた。

一方、保護者の認識を調査する目的で、保育所8カ所、幼稚園2カ所の年長児263名の保育者と保護者に「N式得手不得手チェックシート」を実施した。その結果、保護者は保育者よりも総合支援得点(図の合計得点;19点以上が要支援児と判定される)が高く、領域別に見ても「多動性」「行為」「仲間関係」が保護者の方が保育者より有意に得点が高かった(倉内ら 2017)。「N式得手不得手チェックシート」の結果を保護者にわかりやすくフィードバックすることで、保護者支援にも活用できる可能性が示唆された。

そこで、保護者用フィードバックシート、及びiPad版「N式得手不得手チェックシート」保護者用を考案して、保護者支援ツールを包含したアセスメントと支援が連動したシステムを開発するという本研究の着想に至った。



2. 研究の目的

本研究の目的は、「N式得手不得手チェックシート」によるアセスメントの結果を保護者にフィードバックするための保護者用フィードバックシートを考案して、保護者支援に資するツールとしてiPad版「N式得手不得手チェックシート」保護者用を開発することである。本研究は、研究代表者らが開発した「延岡式アセスメント・支援統合ツール」(倉内ら 2017)の一環として位置づけられ、これにより、保護者支援ツールを包含したアセスメントと支援が連動したシステムの開発が可能となる。

3. 研究の方法

(1) 「N式得手不得手チェックシート」の実施と保育者へのフィードバック

宮崎県、徳島県、和歌山県の保育所4カ所、幼稚園1カ所の年長児の保育者・保護者を対象に「N式得手不得手チェックシート」によるアセスメントを実施した。

アセスメントの結果について、保育者に、開発済みの保育者用フィードバックシートを用いて紙面によるフィードバックを行った。保育者用フィードバックシートについて、図(レーダーチャート)、用語(領域名など)、用語の解説について、理解できたかどうか4件法でアンケート調査を行った。

(2) 保護者用フィードバックシートの作成と保護者へのフィードバック

平易なことばを用いた保護者用フィードバックシートを作成し、(1)の対象の保護者に紙面によるフィードバックを行った。保護者用フィードバックシートについて、レーダーチャート、用語(領域名など)、用語の解説について、理解できたかどうか4件法でアンケート調査を行った。

(3) 保育者面接による保護者への口頭でのフィードバック

宮崎県の保育所1カ所の年中・年長児の保育者・保護者を対象に「N式得手不得手チェックシート」によるアセスメントを実施した。フィードバックを希望した保護者に対して、保護者用フィードバックシートを用いて紙面によるフィードバックを行った。また、口頭でのフィードバックを希望した保護者に、保育者面接によるフィードバックを行った。保育者が口頭で説明する際の補助として、説明のためのシナリオ(台本)を作成した。

保護者用フィードバックシートを用いて保育者が保護者に口頭で説明し、その後、説明のしやすさについて保育者にアンケート調査を行った。質問項目は、フィードバックシート(9項目)、シナリオ(4項目)、フィードバック全体について(2項目)であった。

(4) 保育者と保護者のペアマッチングによる一致度の検討と保育者面接によるフィードバック

宮崎県の保育所 5 カ所の年中・年長児の保育者・保護者を対象に「N式得手不得手チェックシート」によるアセスメントを実施し、総合支援得点 19 点以上の要支援児について保育者と保護者のペアマッチングを行って一致度を検討した。また、希望者に保育者面接によるフィードバックを実施した。

(5) iPad 版「N式得手不得手チェックシート」保護者用の開発

(2)～(4)の結果をふまえて、保護者用フィードバックシートに修正を加え、iPad 版「N式得手不得手チェックシート」保護者用を開発した。

4. 研究成果

(1) 「N式得手不得手チェックシート」の実施と保育者へのフィードバック

保育者 13 名、保護者 138 名より回答が得られた。結果について、保育者用フィードバックシートを用いて保育者 13 名を対象に紙面によるフィードバックを行った。4 件法(1～3)によるアンケート調査の結果、図については 3.3、用語については 3.0～3.3 で「わかりやすい」が多かった。用語のうち「向社会的」が 3.0 と最も低い結果であった(倉内ら 2020)。

(2) 保護者用フィードバックシートの作成と保護者へのフィードバック

保護者用フィードバックシートを作成し、保護者 138 名を対象に紙面によるフィードバックを行った。4 件法(1～3)によるアンケート調査の結果、図については 2.7、用語については 2.8～3.07 で保育者より低い結果であった。

自由記述では、「子どもの特徴と合っていた」「わかりやすく、子どもの発育と個性を見直す良いきっかけになった」「親から見る子どもと質問表の結果で見る子どもと違った部分もあり興味深かった」等、有用性を示唆するコメントが得られた。一方、「グラフの見方がよくわからなかった」「得手不得手がわかって、それを今後どう活かすか対応策なども書いてあると良い」等、改善点を示唆するコメントもあった(倉内ら 2020)。

(3) 保育者面接による保護者への口頭でのフィードバック

保護者 36 名に対して「N式得手不得手チェックシート」を実施した。35 名の保護者より回答が得られ、その内 17 名が紙面によるフィードバックを希望した。また、17 名中 3 名が保育者面接によるフィードバックを希望した。保護用フィードバックシート、及び保育者用説明シナリオを作成し、3 名中 2 名に面接によるフィードバックを実施した。なお、1 名は保護者の都合で実施できなかった。

保育者 2 名が保護者に口頭で説明し、その後、説明のしやすさについて保育者にアンケート調査を行った。保育者 2 名ともに、全項目で 4 段階評価のうち 3 段階以上のポジティブな評価結果であった。シナリオに関する 3 項目は、2 名とも 3 段階であり、やや低い結果となった。自由記述では、「シートの図は見やすく、保護者にとって分かりやすいと思う」「シナリオはフィードバックのシミュレーションという点

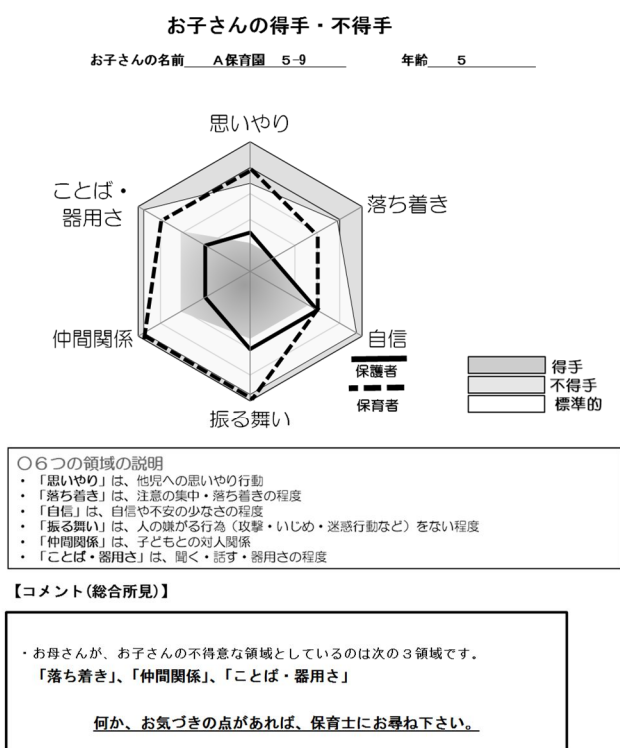
で有効であるが、相互のやり取りを重視すると必ずしも予定通り展開が行かなかった」「保護者から困り感の訴えがあった場合、これらの方式を活用したい」等のコメントが得られた(倉内ら 2022、松山ら 2023)。

(4) 保育者と保護者のペアマッチングによる一致度の検討と保育者面接によるフィードバック

年中・年長児 173 名の保育者・保護者を対象に「N式得手不得手チェックシート」によるアセスメントを実施した。要支援児の割合は、保育者、保護者ともに 13.3% であり、一致度は 43.5% であった。保護者全員に紙面によるフィードバックを実施した。また、保育者、保護者ともに要支援児であった 10 名中 2 名に保育者面接によるフィードバックを行った。

(5) iPad 版「N式得手不得手チェックシート」保護者用の開発

(2)の結果をもとに保護者用フィードバックシートに修正を加え(図;松山ら 2023)、iPad 版「N式得手不得手



チェックシート」保護者用を開発した。

また、(3)～(4)の結果をふまえて修正、及び機能拡張を重ね、iPad版「N式得手不得手チェックシート」保護者用を完成させた。iPad版「N式得手不得手チェックシート」保護者用は、図にも示したように、以下のような特徴を備えている。

<p>6領域の名称変更と用語の説明</p> <ul style="list-style-type: none">・「向社会性」「多動性」「情緒」「行為」「仲間関係」「言葉・動作」を、それぞれ、「思いやり」「落ち着き」「自信」「振る舞い」「仲間関係(変更なし)」「ことば・器用さ」に変更・「思いやり」は他児への思いやり行動、「落ち着き」は注意の集中・落ち着きの程度等、用語の説明をわかりやすく改変 <p>重ね書き機能の追加</p> <ul style="list-style-type: none">・保護者1回目と保護者2回目、保護者1回目と保育者1回目等、複数回の結果をレーダーチャートに表示 <p>得手、不得手、標準的のゾーンを色分けしてレーダーチャートに表示</p> <ul style="list-style-type: none">・過去の我々の研究で得られた2,024名のデータの個人間差に基づき、6領域ごとに50パーセンタイル内を得手ゾーン、10パーセンタイル未満を不得手ゾーンとしレーダーチャートに表示 <p>コメント(総合所見)の追加</p> <ul style="list-style-type: none">・得手、不得手の領域の数と領域名をコメント欄に記載

(6)今後の課題

(3)～(4)の保護者へのフィードバックの結果、保護者用フィードバックシートやiPad版「N式得手不得手チェックシート」保護者用の一定の有効性が示唆された。面接を担当した保育者からは、保護者の認識が高まり支援を前向きに受け入れたとの感想が得られ、保護者支援に資するツールとして活用できる可能性が示された。

一方、保育者から、保護者への面接によるフィードバックの前に研修をしてほしいという要望があった。補助として用いる説明用シナリオ(台本)を作成して事前に説明することで、保育者の理解が深まった。今後は、保育者面接によるフィードバックの例数を重ね、ツールの活用について保育コンサルテーションの視点から検討する予定であり、集団コンサルテーションのアプローチに関する研究に着手している(松山ら 2023)。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 松山光生、戸高翼、首藤郁子、倉内紀子	4. 巻 21
2. 論文標題 N式アセスメント・支援統合ツールを用いた発達障害幼児の保育支援計画作成-KABC- の結果に基づいて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 KABCアセスメント研究	6. 最初と最後の頁 73-81
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 松山光生、濱野よしの、倉内紀子	4. 巻 21
2. 論文標題 発達障害リスク幼児のためのN式アセスメント・支援統合ツールの実用性と課題	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 九州保健福祉大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 21-26
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 松山光生、首藤郁子、倉内紀子	4. 巻 24
2. 論文標題 N式得手不得手チェックシートの結果を保護者にフィードバックする方法ー保育コンサルテーションの視点から	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 九州保健福祉大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 倉内紀子、松山光生、濱野よしの
2. 発表標題 N式得手不得手チェックシートのフィードバックシートに対する保護者の理解度 有効性と課題ー
3. 学会等名 リハビリテーション連携科学学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 倉内紀子、松山光生、首藤郁子
2. 発表標題 アセスメントの結果を保護者にフィードバックする方法に関する研究
3. 学会等名 日本リハビリテーション連携科学学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 松山光生、首藤郁子、倉内紀子
2. 発表標題 N式得手不得手チェックシート評定結果の保護者へのフィードバックー集団コンサルテーションを活用して -
3. 学会等名 臨床発達心理士会
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	松山 光生 (Matsuyama Mitsuo) (90389586)	九州保健福祉大学・臨床心理学部・准教授 (37604)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------